

郡上八幡における新規出店者の 実態把握に関する調査研究

猪股 誠野¹・佐々木 葉²

¹非会員 早稲田大学大学院 創造理工学研究科 建設工学専攻
(〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1, E-mail:s.i-create.w@toki.waseda.jp)

²正会員 博士(工学) 早稲田大学 創造理工学部 社会環境工学科
(〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1, E-mail:yoh@waseda.jp)

岐阜県郡上市八幡町の中心市街地では移住者が新たに店舗を出店する傾向が見受けられ、各々が独創的な工夫によって地域に多様な働きかけを行っている。本研究は新規出店者の実態を、特に経営上の工夫という点から明らかにすることを目的とし、ヒアリング調査によって個々の事例の詳細を把握した。これにより、新規出店者の属性や出店までの経緯とともに、経営上の工夫を店舗デザイン、商売方法、地域への貢献的活動の三点から明らかにした。その結果、地域特性を商業活動を通して継承、発信している事例があることが明らかになった。

キーワード：郡上八幡、新規出店者、経営工夫、持続性

1. 研究の背景と目的

(1) 研究の背景

2008年以降日本の総人口は減少の一途を辿っており¹、2048年には1億人を割ると推計されている²。また、全国的な人口減少と並行して都市部への人口集中及び少子高齢化は依然として続いている。その結果、地方都市では人口減少が深刻化しており、存続が危ぶまれる地域も少なくない。こうした状況に対し、政府は「地方創生」の名の下に2014年「まち・ひと・しごと創生法」を成立し、各地方自治体に対して人口増加、雇用創出に向けた長期ビジョン戦略の策定を要請している。こうした社会的背景から、今後地方都市においては移住者のための都市整備が行われ、地域間で差異はあれど、移住者が増加されることが予想される。

岐阜県郡上市八幡町(以下、郡上八幡)では、ここ数年中心市街地において自ら仕事を創出し、新規出店する移住者が増えてきている。また、その新規出店者たちは店を経営する上で様々な工夫を凝らすことで、地域に根差した店を目指すと同時に独自性を創出している。

地域の持続性を議論する上では、単に人口の増減を数値で扱うだけではなく、郡上八幡における新規出店者の活動の様な、移住者の活動に着目することが重要であると言える。したがって、新規出店者の活動や働きかけの実態を把握することは、地域の持続性を推考する上で有用であると考えられる。

(2) 研究の目的

以上のような背景から、本研究では郡上八幡の中心市街地における新規出店者を対象者とし、各新規出店者の属性や出店までの経緯を把握するとともに、経営上の工夫を明らかにすることを目的とする。これにより、移住者の増加が予想される地方都市において、今後移住者の活動が地域に対してどのような変化や新規性をもたらし得るのか想定するための示唆を得ることを期待する。

2. 研究の概要

(1) 既存研究の整理

a) 流入者が地域にもたらす影響に関する研究

原田ら³は、大阪市空堀地区において新規流入者が表現・発信・交流の場の創出やまちづくりを動機として行っている創造的活動が、地域に多様性や住民同士の交流の場を創出していることを明らかにしている。長谷川ら⁴は新潟市越前浜集落において、移住者が中心となって開催した地域行事により地域内外の人同士が居合わせる場が形成されたことで結果的に住民の一部に地域活性意識が芽生えたこと、また民家で開催されたことで民家が新たな社会的行事の装置として機能し始めたことを明らかにしている。その上で、地域内行事が既存建築において開催されることが、地域環境の持続につながる可能性

があると考察している。

b) 郡上八幡を対象とした研究

齊藤ら⁹⁾は 絵画史料と文献史料を併せて分析することで郡上八幡の近世城下町の姿を復元することを試みており、その結果町割、社寺配置、街路構成は現在まで継承されていることが明らかにしている。荒井¹⁰⁾は水システムの歴史性、伝統性を水路網と水調整装置の整備過程から把握した上で、水調整施設とその環境音の関係性について分析している。結果として、郡上八幡は江戸時代から今日まで持続的に整備され続けており、水調整装置が発する環境音は伝統的・歴史的な水システムを音環境の側面から知覚できる伝統的環境音であることを明らかにしている。この他にも、郡上八幡の水環境に着目した研究には、笠ら⁷⁾の研究や中嶋ら⁸⁾の研究など多くの研究がある。

(2) 本研究の位置づけ

以上のように、特定の地域における移住者の取り組みやそれが地域にもたらす影響、変化を扱った研究は存在しているが、移住者の商業活動を経営上の工夫に焦点を当て把握した研究は見られない。本研究では、より一人一人の新規出店者に焦点を当て、出店経緯や経営上の工夫を詳細に記述する。これにより、新規出店者の活動がどのように地域に新規性や持続性をもたらす可能性があるのかの示唆を得るための研究に位置づけられる。

(3) 研究の方法

本研究では、中心市街地における建物調査の結果抽出された新規出店者に対しヒアリング調査を行い、新規出店者の属性、流入実態及び経営上の工夫を明らかにする。流入実態については流入して来た経緯と物件の取得方法に着目することで、何を主たる目的とし、どのような経緯で新規出店者が地域に流入してきているのかを把握する。また、経営上の工夫については、店舗デザイン、商売方法、地域への貢献的活動の三つの観点から分析することで、店舗を運営する上での工夫を地域特性との関係性からも考察することを試みる。

3. 対象地概要

(1) 岐阜県郡上市八幡町の概要

岐阜県郡上市八幡町は、岐阜県のほぼ中央に位置しており、東西に走る吉田川によって中心市街地は南北に二分され、北側が北町、南側が南町と呼ばれている。古くから東海地方と北陸地方を結ぶ交通の拠点であり、八幡山に八幡城が築かれてからは城下町として栄えた。三方

を山に囲まれた閉鎖的な環境であったことから独自の文化が育まれてきた。

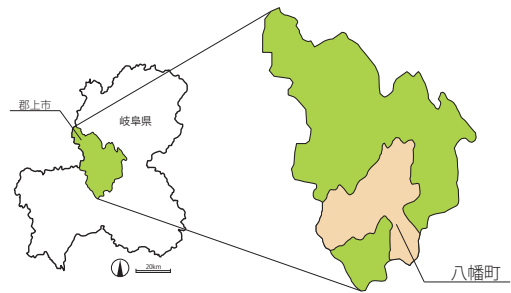


図-1 岐阜県郡上市八幡町位置図

城下町時代に築かれた都市基盤が現在の町の骨格を形成しており、建造物の再建と改修を重ねることで歴史的な景観を保全してきた。その一つの成果として2012年には北町の大部分が重要伝統的建造物群保存地区に指定されている⁸⁾。また、市街地全域に水路網が張り巡らされており、随所に生活の中で利用されてきた水利用施設を見ることができ、今もなお使われているものも存在している。さらに、国無形民俗文化財に指定されている郡上踊りが催される夏の時期は全国各地から参加者が集まり、多くの観光客で町中が賑わいを見せる。

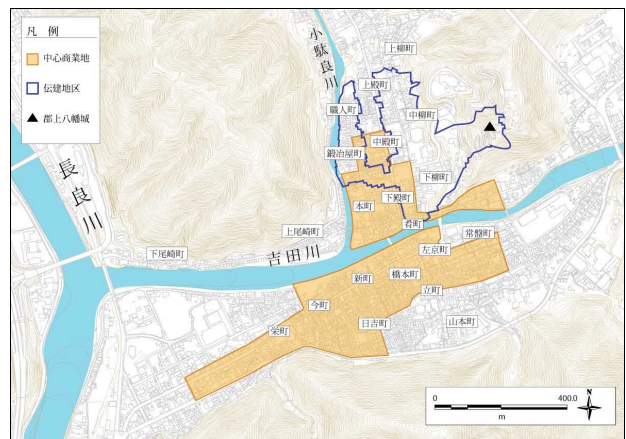


図-2 中心市街地周辺図(国土地理院基盤情報に加筆)

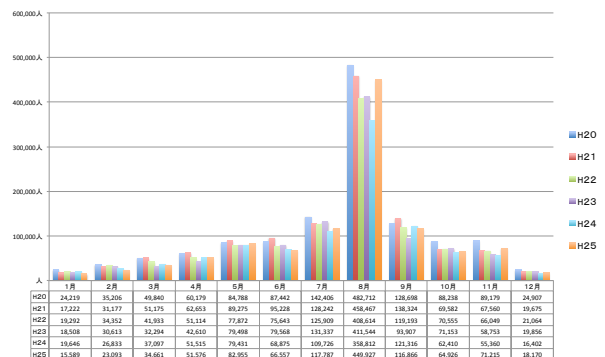


図-3 観光施設入込客数の推移⁹⁾

城下町から続く生活の歴史が文化と景観の両方に色濃く残されており、それらが地域特性となって地域の魅力を創出している。その結果、郡上踊りの開催期間だけで

なく、一年を通して多くの観光客が伝統的な町並みや水環境を目当てに足を運んでいる。

(2) まちづくりの歴史と空き家の現状

郡上八幡におけるまちづくりの歴史と空き家対策への取り組みについて、文献資料¹⁰⁾¹¹⁾¹²⁾及び郡上八幡町および郡上市職員としてまちづくりを永らくリードするとともに、2015年4月より空き家プロジェクトのメンバーを務めている武藤隆晴氏へのヒアリング結果を元に概要をまとめる。

a) まちづくりの歴史

1963年に上下水道が敷設されたことで、伝統的な水利用施設が次第に利用されなくなり、その価値が失われつつあった。そうした中で1977年に渡辺一二（多摩美術大学名誉教授）らの研究チームが郡上八幡の独自の水環境に注目し調査を行い、その結果を公表した。この公表が大きなきっかけとなり、行政と住民の間でこれまで築いてきた独自の水環境の価値を再認識する動きが現れ始め、「さつきの会」を代表とする住民組織によって水環境の整備が始められた。その後、行政側も1982年に「八幡町水を活かしたまちづくり構想」を策定し、用水路の改修や伝統的水利用施設の保存といった水環境の保存を進める体制を整えていく。また、同時期に柳町の住民から老朽化した用水路改修の陳情が出されたことがきっかけとなり、用水路の改修に合わせて町並みも一体的に保存していくことが考え出される。その結果、行政が用水路を改修する代わりに住民による主体的な町並み保存が求め

表-1 郡上八幡におけるまちづくりの経緯

| 年代 | まちづくりに関する出来事 |
|------|------------------------------------|
| 1963 | 上下水道の敷設 |
| 1973 | 水環境造形計画研究会による調査開始 |
| 1976 | さつきの会設立 |
| 1977 | 水環境造形計画研究会による調査結果報告 |
| 1982 | 「八幡町水を活かしたまちづくり構想」策定 |
| 1984 | 八幡町第一次総合計画の策定 |
| 1985 | 柳町町並み保存会設立 八幡町ポケットパーク構想 |
| 1986 | 職人町町並み保存会設立 |
| 1990 | いがわと親しむ会 |
| 1991 | 郡上八幡景観条例策定 |
| 1993 | 鍛冶屋町町並み保存会設立 |
| 1996 | 都市計画マスタープランの策定 |
| 1997 | 34のポケットパークの整備完了 |
| 1998 | 郡上八幡まちづくり協議会設立 |
| 1999 | 産業振興公社発足 |
| 2000 | 空き家実態調査 |
| 2002 | 街並みづくり町民協定 町家本右衛門活用実験開始 |
| 2003 | 街なみ環境整備事業導入 |
| 2004 | 水辺空間調査の実施 合併により「郡上市八幡町」へ |
| 2006 | 郡上市総合計画策定 まちづくり交付金事業の導入 |
| 2010 | 歴史的まちづくりランドデザイン調査 |
| 2011 | 郡上市景観計画策定 |
| 2012 | 町家「玄麟」活用プロジェクト 重要伝統的建造物群保存地区認定(北町) |
| 2013 | NPO法人「郡上八幡水の学校」設立 |

られたことで「柳町町並み保存会」が設立された。その後、住民による町並み保存の動きが町内に広まり、水環境と町並みを活かしたまちづくりが進められていった。

b) 空き家の現状と空き家対策への取り組み

2013年の行政による空き家調査の結果、市街地だけでも353件の空き家が確認され、市街地内の1割強が空き家になっていることが明らかになった。2000年に行われた同様の調査の結果では207件であったことから、1年に約10件のペースで空き家が増加していることになる。

空き家の利活用が進まない背景には、所有者の多くが貸し出すことに好意的でないという問題がある。郡上八幡では土地柄として家系を重んじる人が多く、空き家となっても仏壇の管理上の問題、また代々受け継がれてきた家系の家屋を手離すことへの背徳感から空き家をそのままにしておく所有者が大半を占めている。加えて、郡上踊りや盆正月に親族が泊まる場所として確保しておきたいという所有者も多く存在している。

こうした中で、郡上八幡では2015年度より公社の職員らが中心となり「郡上八幡空き家プロジェクト」を始動させ、先進的な空き家の利活用策を進めている。まず、中心市街地内の空き家の立地を悉皆調査し、同時に所有者へのアンケート並びにヒアリングを行うことで、物件を貸し出すことへの意向を伺っている。その結果、貸出しに意欲的であった所有者から空き家を借入し、改修した上で郡上八幡での活動を希望している人に貸出す。そして、得られた家賃収入を元手に新たに空き家を借入し、改修してまた貸出す。このプロセスを循環させることで、空き家の利活用を進めるとともに、郡上八幡で活動することに意欲的な人を選択的に呼び込むことを狙っている。

4. 新規出店者の流入実態

(1) 新規店舗一覧

本研究では、中心市街地において2010年以降オープンし、かつチェーン店ではなく個人によって開業された店舗を新規店舗とし、その経営者を新規出店者とする。

2014年9月2日に新規店舗を抽出するため中心市街地において建物調査¹³⁾を実施した。そのため、対象とする新規出店者には2015年より開始した空き家プロジェクトによって物件を取得した新規出店者は含まれていない。建物調査の結果、対象区域において22件の新規店舗が抽出され、そのうち17店舗に対してヒアリング調査を行った。

(2) 流入経緯と物件の取得方法

ヒアリング調査から得られた各新規出店者の属性は表-3の通りである。本節では、属性のうちa)流入経緯、b)物件の取得方法に着目することで、新規出店者たちが何

を目的として郡上八幡に流入し、どのように物件を取得したのかを明らかにする。

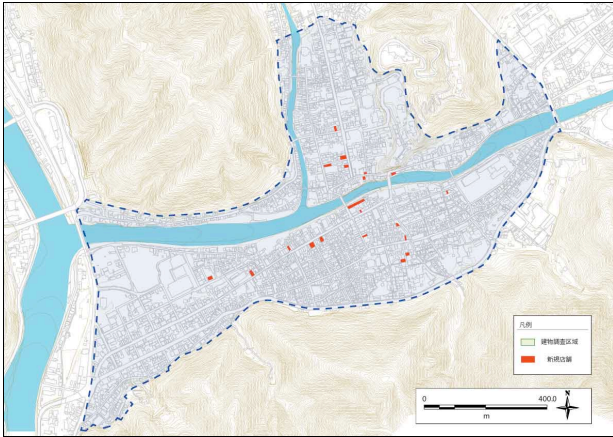


図-4 調査対象区域と新規店舗22件の分布(国土地理院基盤情報に加筆)

表-2 ヒアリング調査概要

| | |
|----------|---|
| 日時 | 2014年10月11日～10月12日 2014年11月10日～11月12日 |
| 対象者 | 新規出店者17人 |
| 方法 | 店舗を訪問し、1対1のインタビュー形式で行った。 ヒアリング内容は主に以下のような質問である。 【年代、性別、出店理由、郡上八幡を選んだ理由、物件の取得方法、経営する上での工夫、郡上八幡の魅力】 |
| データの取り扱い | 会話内容をボイスレコーダーにより録音し、調査終了後テキスト化することで調査結果のまとめと分析に用いた。 |

a) 流入経緯

ヒアリング調査により新規出店者の流入経緯を明らかにした結果、流入してきた主たる目的から以下のように分類できた。

①移住先行型

郡上八幡に住む、ということの主たる目的として移住してきたパターンであり、相当する5人の新規出店者全員が岐阜県外の出身者である。郡上踊り・水や空気など環境の良さ・人とのつながり・昭和の風情といったものに魅力を感じ移住を決めている。

②帰郷志望型

郡上八幡出身者が新たな生活を始めるためにUターンしてきたパターンである。帰郷してきた時期としては、結婚や退職といった人生における節目や、専門資格を習得し開業できるようになった時期が挙げられている。

③出店志向型

出店することを主たる目的として郡上八幡に流入してきたパターンであり、多くが郡上市内の近隣の町の出身者である。出店願望があり、物件を探していた際に偶然市街地内で利用できる空き物件が見つかったために流入して来ている。

表-3 新規出店者の属性

| 店名 | 業種 | 年数 | 年齢(代) | 出身地 | 居住地 | 取得経緯 | 所有権利 | 流入経緯 |
|----------------|-----------|-----|-------|--------|--------|----------|-------|-------|
| TAKARA GALLERY | ギャラリー | 2年目 | 30 | 愛知県 | 店舗併用住宅 | 知人紹介型 | 賃貸 | 移住先行型 |
| まちやど | ゲストハウス | 1年目 | 30 | 青森県 | 市街地内 | 知人紹介型 | 賃貸 | |
| にど | カフェ | 3年目 | 50 | 岡山県 | 八幡町内 | 知人所有型 | 賃貸 | |
| こぼこぼ | 居酒屋・美酒工房 | 2年目 | 40 | 東京都 | 八幡町内 | 行政・公社紹介型 | 賃貸 | |
| カナナ | カフェ | 1年目 | 60 | 福岡県 | 八幡町内 | 知人所有型 | 賃貸 | |
| 糸cafe | カフェ | 1年目 | 30 | 郡上市八幡町 | 八幡町内 | 知人紹介型 | 賃貸 | 帰郷志望型 |
| 灯 | 居酒屋 | 3年目 | 30 | 郡上市八幡町 | 店舗併用住宅 | 知人所有型 | 賃貸 | |
| 玄麟 | バル | 2年目 | 30 | 郡上市八幡町 | 市街地内 | 行政・公社紹介型 | 賃貸 | |
| おくむら鍼灸接骨院 | 接骨院 | 1年目 | 30 | 郡上市八幡町 | 店舗併用住宅 | 知人紹介型 | 建物・土地 | |
| 清水珈琲 | カフェ・ギャラリー | 3年目 | 60 | 郡上市八幡町 | 市街地内 | 自己所有型 | 建物・土地 | |
| 彩屋 | 花屋 | 1年目 | 30 | 郡上市八幡町 | 市街地内 | 自己所有型 | 建物・土地 | 出店志向型 |
| 俄 | 蕎麦処 | 1年目 | 40 | 郡上市白鳥町 | 市街地内 | 知人所有型 | 建物 | |
| Sympa | レストラン | 1年目 | 40 | 郡上市美濃町 | 郡上市内 | 行政・公社紹介型 | 賃貸 | |
| eBANATAW | カフェ | 4年目 | 30 | 不破郡垂井町 | 店舗併用住宅 | 知人紹介型 | 賃貸 | |
| とも家 | カフェ | 1年目 | 20 | 奥濃加茂市 | 郡上市外 | 知人所有型 | 賃貸 | |
| kukka | 雑貨・花・カフェ | 2年目 | 50 | 郡上市大和町 | 八幡町内 | 行政・公社紹介型 | 賃貸 | 出店志向型 |
| NANA | カフェ | 1年目 | 30 | 郡上市八幡町 | 郡上市内 | 知人紹介型 | 賃貸 | |

b) 物件の取得方法

ヒアリング調査により物件の取得方法を明らかにした結果、以下の4つのパターンに大別できた。

①知人所有型

新規出店者の知人が空き物件を所有しており、知人の方から申し出を受けて物件を取得したパターンであり、5店舗がこのパターンに相当する。

②知人紹介型

知人から空き物件情報の提供を受けたことで、空き物件の所有者と繋がり物件を取得したパターンであり6店

表-4 ヒアリング調査を行った新規店舗一覧

| | | | | | |
|-------|-------------------------|----------------|-----------------|------------------|-------------------|
| 移住先行型 | | | | | |
| | TAKARA GALLERY ギャラリー | まちやど ゲストハウス | にど カフェ | こぼこぼ 居酒屋兼酒造 | カナナ カフェ |
| 帰郷志望型 | | | | | |
| | 糸cafe カフェ | 灯 居酒屋 | 玄麟 バル | おくむら鍼灸接骨院 接骨院 | 彩屋 花屋 |
| | | | | | |
| | | | | | 清水珈琲 カフェ・ギャラリー |
| 出店志向型 | | | | | |
| | 俄 蕎麦処 | Sympa レストラン | eBANATAW カフェ | とも家 カフェ | kukka 花・雑貨・カフェ |
| | | | | | |
| | | | | | NANA カフェ |

舗が相当する。このパターンには、新規出店者間での空き物件の情報共有という動きも見受けられている。

③自己所有型

2店舗が相当しており、元々持っていた土地に新築された店舗と両親が経営していた店舗を改修し、業種転換することで出店した店舗である。

④行政・公社介入型

4店舗が相当しており、1店舗は空き家バンクを活用して物件を取得している。残りの3店舗は産業振興公社が購入し、複合商業施設として一般に貸し出している物件に、公社側から申し出があり店舗を出店している。

5. 新規出店者による独創的工夫

新規出店者が店舗を経営する上で実施している工夫をヒアリング調査により抽出した結果、主に店舗デザイン、商売方法、地域への貢献的活動の三側面において工夫が創出されていることが明らかになった。各新規出店者が行っている経営上の工夫を表-5に示す。ここでは、地域への貢献的活動を行っている新規店舗2店舗の事例を具体的に示す。

表-5 新規出店者の経営上の工夫

| | 経営上の工夫 |
|----------------|---|
| TAKARA GALLERY | 【店舗デザイン】…店内の活動を見せるためにガラス面をファサード内に組み込んでいる。 【商売方法】…他の新規店舗を紹介することで顧客の共有に取り組んでいる。 【地域への貢献的活動】…郡上八幡の地場産業であるスクリーン印刷を手ぬぐい作り体験を通して発信している。 |
| まちやど | 【店舗デザイン】…町並みに合うように入口に格子を掛け、看板にスクリーン印刷を用いた布看板を使用している。 【地域への貢献的活動】…空き家が多いこと、地域の魅力を発信できずにいるという問題意識から、地域住民と宿泊者の交流の促進、地域住民への空き家活用モデルの提示を意図したイベントを開催している。 |
| にど | 【商売方法】…モーニング文化が根強いので、出店後に新たに朝の営業時間を設けた。 |
| こぼこぼ | 【商売方法】…まちやどの宿泊者に試飲券を配っており、他の新規出店者とのコラボ企画を行っている。 【地域への貢献的活動】…郡上八幡の水質の良さを活かして醸造した麦酒を郡上八幡の地ビールとして売り出しており、現在ブランド化を目指している。 |
| カンナ | 【地域への貢献的活動】…地元住民が団欒できる場を提供するとともに、地元住民と観光客が交流できる場づくりを目指している。 |
| 糸カフェ | 【店舗デザイン】…ファサード内の大きなガラス面を敢えて隠さず、店内でのイベント等の様子を見せることで日常の中に交流の場を創出することを目標としている。 【地域への貢献的活動】…店内ワークスペースを今後郡上八幡での出店を目指している人、周辺地域で活動を行っている人に場所を提供することで、情報発信の場を創出している。 |
| 灯 | 【商売方法】…頼母子という郡上八幡に根強く残っている風習を取り入れ、店内に大店間を設けている。 【地域への貢献的活動】…若い年代の人たちが帰郷してきたときに集まれる場の提供を目指している。 |
| 玄麟 | 【商売方法】…人と人の近さという郡上八幡の魅力を活かし、顧客の共有する意識を持って経営している。 |
| おくむら鍼灸接骨院 | 【店舗デザイン】…町並みに配慮し、壁面に使用する色を茶や白といった色のみとしている。 |
| 清水珈琲 | 【店舗デザイン】…町並みに加え、隣接する藪の色合いにも合わせた外観デザインとしており、また町内の駐車場のほとんどが有料であることから駐車場を設けることで周辺地区から来店しやすいようにしている。 【店舗デザイン】…以前はガラス面がアルミサッシで囲われていたが、改修し全て木枠に取り替えることで町並みに合った外見としている。 |
| 彩屋 | 【商売方法】…花が売れない夏の時期は、店内スペースを活用し観光客向けのワークショップを実施している。 |
| 俄 | 【商売方法】…頼母子という郡上八幡に根強く残っている風習を取り入れ、店内に大座敷を設けるとともに、夜間営業も行っている。 |
| Sympa | 【商売方法】…隣町から流入してきていることもあり、近隣の老舗の商品を使う、または食材を借りに行くなどのコミュニケーションを取ることで地域に溶け込む努力をしている。 |
| eBANATAW | 【店舗デザイン】…町並みや古民家としての建物の魅力に配慮し、麻袋や雑貨品を店先空間に置くことで他店舗との差別化を図っている。 【商売方法】…地域との繋がりが持たず、住民への挨拶、店舗周辺の水路清掃、町内でのゴミ拾いを自主的に行うなど生活面において努力をしている。 |
| とも家 | 【店舗デザイン】…町並みに配慮し茶色を基調とした外観にしており、その中で店先に立て看板やボードを用いた宣伝を行っている。 |
| kukka | 【商売方法】…元々は花と雑貨を中心に扱っていたが、冬場の閑散期を乗り切るためには住民が利用しやすい店舗にする必要があると考え、新たにモーニング文化を取り入れカフェを始めた。 |
| NANA | 【店舗デザイン】…郡上八幡の木や藁のイメージを取り入れ、白を基調とした中に木の暖かさを取り入れている。 |

a) 事例1:まちやど

まちやどの店主は偶然見つけた自然体験のインストラクターの仕事の始めたのをきっかけに郡上八幡に移住し

て来た。そして、生活していく中で、地域の魅力を発信しきれていないこと、空き家利用が進んでいない現状に問題意識を抱くようになった。そのため、交流の場の創出を目的として、空き家を活用することでゲストハウスをオープンしている。以下、まちやどの店主が行っている工夫を記述する。

①空き家活用モデルの提示と交流の場の創出

まちやどでは建物の改修時に、壁塗りや床張りなど一般人でも携われる部分を住民参加型のワークショップ形式で行った。そうすることで、空き家の活用モデルを住民に認識してもらうための機会を設けている。また、店内に設けた共有スペースを一般に開放しイベントを開催することで、交流の場とともに、移住者が空き家を活用しどのように生活しているのかを住民に知ってもらうための場を創出している。



図-5 ワークショップの様子

(<https://ja-jp.facebook.com/nishiyado.gujo>より引用)

②新規出店者とのネットワークの構築

まちやどの店主は、他の新規出店者と共同でのイベント開催や、普段の生活の中で他の新規出店者を招いた食事会を行っている。このような活動を通して、他の新規出店者とのネットワークを構築するとともに、宿泊者や新規出店者の交流の場、そして新規出店者の活動を紹介する情報発信の場を創出している。

b) 事例2:糸カフェ

糸カフェの店主は、在京中に情報発信の場としてのカフェの価値に関心を寄せるようになった。そして帰郷後、郡上市内で移動販売やチャレンジショップとしてカフェを営業し、その中でコミュニティサイトなどを通じて市内でのネットワークを拡げていった。出店後は構築したネットワークを活用して、地域に対して多様な働きかけを行っている。

①情報発信の場の創出

糸カフェの店内にはワークスペースが設けられており、チャレンジショップやワークショップの場として活用されている。今後郡上八幡で出店意欲のある人や、郡上市

内で創作的な活動を行っている若い年代の人たちが、自らの活動を住民に対して発信する機会を得るための情報発信の場を創出している。実際に2014年の夏に糸カフェのワークスペースを活用しチャレンジショップを行っていた下駄屋(図-6参照)が、2015年の春に町内に新規出店している。この他にも、一面ガラス張りの店舗ファサードを活かし、店先と店内の両空間でのマルシェを郡上市内の農家と協同開催するなど、様々な取り組みを行っている。



図-6 店内のワークスペース (https://www.facebook.com/itoproject/photos_streamより引用)

②「モノ」を介した人と人の繋がり創出

糸カフェの店主は、店舗の経営とは別に町内でまちづくりイベント¹³⁾の運営を行っている。出店以前に構築した郡上市内でのネットワークを活用し、周辺地域においてもものづくり関連の活動を行っている人たちと共同で住民参加型のイベントを実施している。このようなイベントを運営する背景には、「モノ」を介して人と人の繋がり、さらには人と地域の繋がりを創出したいという糸カフェの店主の思いが込められている。

6. 結論

(1) 新規出店者の実態のまとめ

流入経緯については、主たる目的に移住・帰郷・出店があり、主に県外出身者が移住、周辺地域の出身者が出店を目的として流入して来ていることが明らかになった。

物件の取得方法に関しては4つのパターンがあり、中には地域内で自らネットワークを構築し空き家情報を共有することで物件を取得した新規出店者が存在していることが明らかになった。

新規出店者が店舗を経営する上での工夫については、主に店舗デザイン・商売方法・地域への貢献的活動の三側面において現れていることが分かった。また、中にはまちやどや糸カフェのように商業活動を通して、地域にとってコミュニティの場、情報発信の場を創出することで地域の魅力を多くの人に伝える工夫をしている新規出

店者が存在していることが明らかになった。

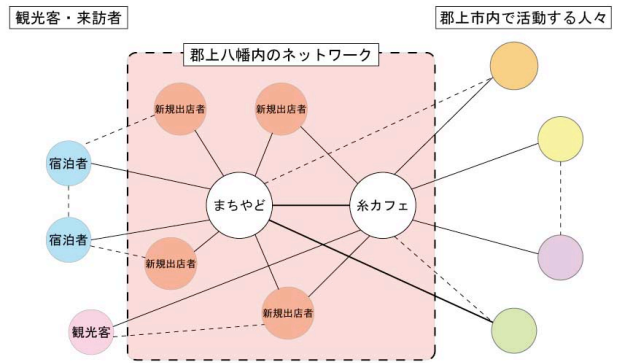


図-7 まちやど・糸カフェによる地域ネットワークの模式図

(2) 考察

これまで郡上八幡では、行政と住民が一体となって歴史的な町並みや水環境を活かしたまちづくりを行い、地域の特性を現在にまで保全してきた。そして本研究の結果、歴史的な町並みや水環境といったフィジカルな特性だけでなく、頼母子といった文化的な特性も含めた地域特性を経営に反映させている新規出店者が存在することが明らかになった。こうした新規出店者による活動は、郡上八幡の魅力が地域外に発信すると同時に、地域住民に対して郡上八幡がこれまで継承してきた地域特性なんであるかを再認識する機会を与える働きもあると考えられる。

地域が持続していくためには、人口を維持、増加させていくことに加え、地域がこれまで蓄積してきた文化や伝統を未来に繋げていくことが不可欠であると言える。したがって、新規出店者によるこれまでのまちづくりの蓄積により保全されてきた地域の魅力や地域に根付いている文化を商業活動を通して発信、継承する動きは地域の持続性を支える1つの要因になっていくと考えられる。

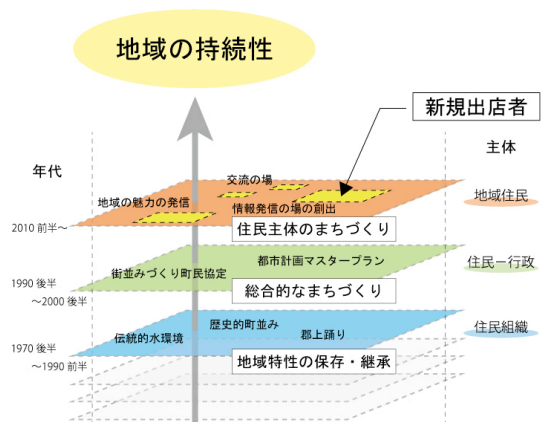


図-8 まちづくりの蓄積における新規出店者の位置づけ

(3) 今後の課題

本研究では、新規出店者の実態を属性、出店に至るまでの経緯、そして経営上の工夫を地域特性に着目することで明らかにした。しかしながら、新規出店者は今後も増加することが予想されるため、継続して新規店舗の増加を迫る必要がある。また、新規出店者による地域への多様な働きかけが蓄積することで、地域に変化が生じてくることが予想される。したがって、今後の課題としては、新規店舗の増加を迫ると同時に、新規店舗の増加及び新規出店者の活動が地域にどのような変化をもたらしているのかを明らかにすることが必要である。

注) 建物調査は、Teh Yee Singが「A Study of Building Change Pattern in Traditional Japanese Town, Gujo Hachiman」(2012年度早稲田大学修士論文)と題した研究の中で用いている2000年と2010年に撮影した建物ファサードの画像データを基礎データとして利用した。この基礎データをもとに、まず目視により新規店舗であるか見当をつけた後に、店主もしくは住民に対してヒアリングすることで新規店舗であるかどうかを特定した。また、補填として店舗のホームページに記載されている情報を参照した。

<参考文献>

- 1) 総務省統計局HP 「統計Today No. 9」 最終更新日2012年11月28日(最終閲覧日2015年8月22日)
<http://www.stat.go.jp/info/today/009.htm>
- 2) 国立社会保障・人口問題研究所HP 「将来人口推計・世帯数」 最終更新日2015年8月5日(最終閲覧日2015年8月22日)
<http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Mainmenu.asp>
- 3) 原田陽子, 山脇啓輔, 野嶋慎二: 大阪空堀地区における新規流入者の創造的な暮らし方に関する研究-セルフビルドと創造的機能に着目- 日本建築学会計画系論文集 第76巻 第667号 1641-1650 2011年9月
- 4) 長谷川崇, 岩佐明彦, 會澤裕貴, 大岡健太郎, 河野泰教, 田沢孝紀: 移住者の働きかけによる過疎集落の空間的・社会的変容-「浜メグリ」による建築ストック利用の可能性- 日本建築学会計画系論文集 第76巻 第668号, 1791-1798 2011年10月
- 5) 齊藤知恵子, 三浦卓也: 城下町郡上八幡の町割と構成に関する調査報告-絵画史料と文献史料による分析- 日本都市計画学会都市計画論文集 Vol. 46 No. 3 2011年10月
- 6) 荒井歩: 郡上八幡における水路網と伝統的音環境に関する研究 ランドスケープ研究日本造園学会誌 65(5) 2002
- 7) 笠真希, 小熊久美子, 窪田亜矢: 歴史的住環境での持続可能な水システムのタイプ化の方法論の開発-水システムの空間形態・利用管理・水質, 及び経年変化に着目して- 住総研研究論文集 No. 38, 2011年版
- 8) 中嶋伸恵, 田中尚人, 秋山孝正: 水辺空間を基盤とした地域コミュニティの形成に関する研究 土木学会論文集D Vol. 64 No. 2 168-178 2008. 4
- 9) 岐阜県郡上市HP 「郡上市観光統計」2015年1月9日更新(最終閲覧日2015年8月25日)
<http://www.city.gujo.gifu.jp/admin/info/post-122.html>
- 10) 高橋敬宗: 「郡上八幡におけるまちづくりの展開プロセスに関する研究」 2005年度 早稲田大学修士論文
- 11) 郡上市郡上八幡北町-伝統的建造物群保存対策調査報告書-平成23年3月郡上市教育委員会発行
- 12) 八幡町都市計画マスタープラン 平成8年岐阜県郡上市八幡町発行
- 13) 郡上クラフト展 郡上八幡実行委員会 最終更新日2014年11月16日(最終閲覧日2015年1月30日)
<http://hachikura.jimdo.com/what-s-new/>